18/5/12 DIALOG(R)File 351:Derwent WPI (c) 2001 Derwent Info Ltd. All rts. reserv.

007916115

WPI Acc No: 1989-181227/198925

XRAM Acc No: C89-079903

Plasmid transformed with genes - used for coding pre-albumin downstream

of of yeast character expression regulating region Patent Assignee: KAGAKU OYOBI KESSEI RYOHO (KAGA) Number of Countries: 001 Number of Patents: 002

Patent Family:

Patent No Kind Date Applicat No Kind Date JP 1117790 Α 19890510 JP 87276598 Α 19871030 198925 B JP 96011074 B2 19960207 JP 87276598 Α 19871030 199610

Priority Applications (No Type Date): JP 87276598 A 19871030

Patent Details:

Patent No Kind Lan Pg Main IPC Filing Notes

JP 1117790 A 12

JP 96011074 B2 10 C12P-021/02 Based on patent JP 1117790

Abstract (Basic): JP 1117790 A

Recombinant DNA which is a shuttle vector comprising genes both yeast and E. coli and yeast's character expression regulation region, and which is transduced with cDNA for coding human prealbumin in the lower portion of the region. The cDNA is pref. a gene for coding human normal prealbumin, specifically peptides of 1st-147th amino acids, which has specific sequence. USE/ADVANTAGE - Prealbumin with amino acid at its any site transformed can be easily produced in quantity. An exemplary abnormal albumin thus produced, i.e. albumin having methionin at 30th amino acid from N-terminus instead of valine is useful to diagnosis for familial amyloido pheurobachy (FAP).

0/6

Title Terms: PLASMID; TRANSFORM; GENE; CODE; PRE; ALBUMIN; DOWNSTREAM; YEAST; CHARACTER; EXPRESS; REGULATE; REGION

Derwent Class: B04; D16

International Patent Class (Main): C12P-021/02

International Patent Class (Additional): C07K-013/00; C12N-015/00;

C12N-015/09; C12P-021/02; C12R-001-865

File Segment: CPI

19日本国特許庁(JP)

① 特許出願公開

⑫ 公 開 特 許 公 報 (A) 平1-117790

@Int Cl.4

識別記号

庁内整理番号

四公開 平成1年(1989)5月10日

C 12 N 15/00 07 K 13/00 C 12 P 21/02

-8412-4B 8318-4H

C-6712-4B※審査請求 未請求 発明の数 1 (全12頁)

プレアルブミンをコードする遺伝子を組込んだ組換えプラスミドお よびこれを用いたプレアルブミンの製法

> の特 類 昭62-276598

22HH 願 昭62(1987)10月30日

特許法第30条第1項適用 昭和62年8月25日発行の「生化学vol.59kg8,1987(第60回日本生化学会大 会抄録号)」に掲載し発表

73発 明

敬 信

博

寛

熊本県熊本市武蔵ケ丘2-142

明 者 ⑫発

中 武 熊本県熊本市清水町高平402-1

砂発 明 者 上 熊本県菊池郡合志町幾久富1647-151

の出 殂 人 財団法人化学及血清療

法研究所

能本県能本市清水町大窪668番地

弁理士 筒 井 の代 理 人 知 最終頁に続く

1.発明の名称

プレアルプミンをコードする遺伝子を組込んだ 組換えプラスミドおよびこれを用いたプレアルブ ミンの製法

- 2.特許請求の範囲
- (1) 酵母の遺伝子と大脳菌の遺伝子を含み、かっ **酵母の形質発現開節領域を担うシャトルベクター** であり、その形質発現関節領域下流にヒトのプレ アルプミンをコードするcDNAを組込んだこと を特徴とする組換えブラスミド。
- 蹼c D N A がヒトの正常プレアルプミンをコ ード する 遺伝子 で ある 前 記 第 (1) 項 記 載 の 組 換 え ブ ラスミド.
- (3) 彼cDNAがヒトの正常プレアルプミン遺伝 子から舞訳される第1番目から第147番目アミ ノ酸までのペプテドをコードする遺伝子を含む前 記第(2)項記載の組換えプラスミド。
- (4) 譲 c D N A が下記の遺伝子配列を含む遺伝子 断片である前記第(3)項記載の組換えブラスミド。

ATG GCT TCT CAT CGT CTG CTC CTC CTC TGC CTT GCT GGA CTG GTA TTT GTG TCT GAG GCT GGC CCT ACG GGC ACC GGT GAA TCC AAG TGT CCT CTG ATG GTC AAA GTT CTA GAT GCT GTC CGA GGC AGT CCT GCC ATC AAT GTG GCC GTG CAT GTG TTC AGA AAG GCT GCT GAT GAC ACC TGG GAG CCA TTT GCC TCT GGG AAA ACC AGT GAG TCT GGA GAG CTG CAT GGG CTC ACA ACT GAG GAG GAA TIT GTA GAA GGG ATA TAC AAA GTG GAA ATA GAC ACC AAA TCT TAC TGG AAG GCA CTT GGC ATC TCC CCA TTC CAT GAG CAT GCA GAG GTG GTA TTC ACA GCC AAC GAC TCC GGC CCC CGC CGC TAC ACC ATT GCC GCC CTG CTG ACC CCC TAC TCC TAT TCC ACC ACG GCT GTC GTC ACC AAT CCC AAG GAA TGA

- (5) 該CDNAがヒトの正常プレアルプミン遺伝 子から翻訳される第21番目から第147番目ア ミノ酸までのペプテドをコードする遺伝子を含む 前記第(2)項記載の組換えブラスミド。
- (6) 該 c D N A が下記の遺伝子配列を含む遺伝子 断片である前記第(5)項記載の組換えブラスミド。

GGC CCT ACG GGC ACC GGT GAA TCC AAG TGT CCT
CTG ATG GTC AAA GTT CTA GAT GCT GTC CGA GGC
AGT CCT GCC ATC AAT GTG GCC GTG CAT GTG TTC
AGA AAG GCT GCT GAT GAC ACC TGG GAG CCA TTT
GCC TCT GGG AAA ACC AGT GAG TCT GGA GAG CTG
CAT GGG CTC ACA ACT GAG GAG GAA TTT GTA GAA
GGG ATA TAC AAA GTG GAA ATA GAC ACC AAA TCT
TAC TGG AAG GCA CTT GGC ATC TCC CCA TTC CAT
GAG CAT GCA GAG GTG GTA TTC ACA GCC AAC GAC
TCC GGC CCC CGC CGC TAC ACC ATT GCC GCC CTG
CTG AGC CCC TAC TCC TAT TCC ACC ACG GCT GTC

- (7) 験 c D N A が F A P 患者が持つ異型プレアルプミンをコードする遺伝子である前記第(1)項記載の組扱えプラスミド。
- (8) 放 c D N A が F A P 里者が持つ異型プレアルプミン遺伝子から翻訳される第1番目から第14 7番目アミノ酸までのペプチドをコードする遺伝子を含む的記集(7)項記載の組換えプラスミド。
- (9) 鎮 c D N A が下記の遺伝子配列を含む遺伝子

断片である前記策(8)項記数の組換えプラスミド。
ATG GCT TCT CAT CGT CTG CTC CTC CTC TGC CTT
GCT GGA CTG GTA TTT GTG TCT GAG GCT GGC CCT
ACG GGC ACC GGT GAA TCC AAG TGT CCT CTG ATG
GTC AAA GTT CTA GAT GCT GTC CGA GGC AGT CCT
GCC ATC AAT GTG GCC ATG CAT GTG TTC AGA AAG
GCT GCT GAT GAC ACC TGG GAG CCA TTT GCC TCT
GGG AAA ACC AGT GAG TCT GGA GAG CTG CAT GGG
CTC ACA ACT GAG GAG GAA TTT GTA GAA GGG ATA
TAC AAA GTG GAA ATA GAC ACC AAA TCT TAC TGG
AAG GCA CTT GGC ATC TCC CCA TTC CAT GAG CAT
GCA GAG GTG GTA TTC ACA GCC AAC GAC TCC GGC
CCC CGC CGC TAC ACC ATT GCC GCC CTG CTG AGC
CCC TAC TCC TAT TCC ACC ACG GCT GTC GTC ACC
AAT CCC AAG GAA TGA

(10) 数 c D N A が F A P 患者が持つ異型プレアルプミン遺伝子から類似される第2 1 番目から第1 4 7 番目アミノ酸までのペプチドをコードする遺伝子を含む前記第(7)項記載の組換えブラスミド。
(11) 数 c D N A が下記の遺伝子配列を含む遺伝子

断片である前記集(10)項記載の組換えプラスミド。
GGC CCT ACG GGC ACC GGT GAA TCC AAG TGT CCT
CTG ATG GTC AAA GTT CTA GAT GCT GTC CGA GGC
AGT CCT GCC ATC AAT GTG GCC ATG CAT GTG TTC
AGA AAG GCT GCT GAT GAC ACC TGG GAG CCA TTT
GCC TCT GGG AAA ACC AGT GAG TCT GGA GAG CTG
CAT GGG CTC ACA ACT GAG GAG GAA TTT GTA GAA
GGG ATA TAC AAA GTG GAA ATA GAC ACC AAA TCT
TAC TGG AAG GCA CTT GGC ATC TCC CCA TTC CAT
GAG CAT GCA GAG GTG GTA TTC ACA GCC AAC GAC
TCC GGC CCC CGC CGC TAC ACC ATT GCC GCC CTG
CTG AGC CCC TAC TCC TAT TCC ACC ACG GCT GTC
GTC ACC AAT CCC AAG GAA TGA

- (12) 前記第(1)項の組換えプラスミドを耐毋 Sac charonyces cerevisiae に導入することにより形質転換酵母を将、この形質転換酵母を培養することを特徴とするヒトプレアルプミンの製法。
- (13) 該プレアルプミンがヒトの正常プレアルプミンである前記第(12)項記載の製法。
- (14) 強プレアルアミンがヒトの異型プレアルアミ

ンである前記第(12)項記載の製法。

3.発明の詳細な説明

プレアルブミンは血液中に、約300μ8/m1程度存在する血情蛋白のひとつであり、血中ではこれが4分子集合し分子量55,000の複合体として存在している。この複合体は甲状腺ホルモンとの結合部位を2ケ所持ち、同ホルモンの輸送に関与してい

る。 さらに、 この複合体はビタミンA 結合蛋白の結合部位を 4 ケ所持ち同ビタミンの輸送にも関与している。 その他、 プレアルブミンの詳細な機能に関してはまだ正確には解明されておらず、 今後の研究成果が期待されている。

最近、N末端より30番目のパリンがメチオニンに変異した異型プレアルプミンが遺伝病家族性アミロイドニューロパチー(FAP)の病因と深くかかわっていることが明らかにされ、そのDNAを解析することで遺伝子は断も可能となっている。

この中で、特にFAPの病因と考えられる異型 プレアルプミンはFAP患者の血液を厚材料とせ ざるを得ず、その機能と病因との関連を解明する 上で大きな制約がある。

このような状況において、プレアルプミン特に 異型プレアルプミンの原材料の入手における制約 を解決できる有力な手がかりとなるのは、 遠伝子 組換えを応用し量産を可能にする技術の関発であ ろう。 しかしながら、 これまでに遺伝子組換え等 の技術を用いてプレアルプミンもしくは異型プレ

すなわち、本発明は、プレアルプミン遺伝子を 組込んだ新規な組換えプラスミド、 それによる形 質転換酵母および診験母によるプレアルプミンの 生産方法を提供するものである。 また、 本発明は これまでヒト血液からの分離が難しく、 試料の入 手に問題があった異型プレアルプミンに関しても これを展界なく大量に供給することを可能にする ものである。

アルプミンの発現を**はみたような報告はまだ見る** たらず、勿論発現に成功した報告もない。

このような事情のもとに、本発明者らは、先に 熊本大学医学部の前田らがクローニングに成功し たヒト由来のプレアルプミン遺伝子、異型プレア ルプミン遺伝子 (Mita et al. Biochem, Biophys. Res. Commun. 124. 558-564 1984)を用い、最初 に大路首を宿主としてプレアルアミンの発現をは みた。 しかしながらその結果としては、 好ましい 成果は得られず、大腸菌を宿主とした発現の試み は失いに終った。 その待さらに本弁明者らは融投 を宿主として用いたプレアルプミンの量度につい て検討を重ねた妨害、敵母の遺伝子と大脳質の遺 伝子とを含みかつ酵母のプロモーターの制御下に プレアルプミン遺伝子を組込んだ新しい組換えり NAを餌製し、それによって酵母を形質転換させ、 かかる形質転換酵母を用いてヒト由来のプレアル プミンと同じ分子量、 免疫学的性質を有するプレ アルプミンを量度させることに成功し、太森明を 完成するに至った。

本発明の完成によって、in vitroで人為的に任意の部位のアミノ酸を変異させたプレアルプミンが容易にかつ量的に入手し得る手段が解決されたもので、本新技術はきわめて興味ある知見を今後生み出す可能性を提供するものである。

本技術は、 ヒト血液を原材料とせず、 ヒトプレアルブミンを容易に入手し得る手段も同時に与えるものであり、 今後の数蛋白の医薬品化において、従来の方法でヒト血液から精製した場合のようにヒト血液に由来する未知の感染性因子の混入を考慮することのない極めて安全かつ低コストでのブレアルブミン製剤を供給することを可能にて制約があった、 異型ブレアルブミンについても、 本発明によりその制約が解決され、 これを容易にしかも無限に提供することが可能となり、 今後のFAPに関する研究に大きく質数するものと考えられる。

以下に本発明の組換えブラスミド、 形質転換散母、 およびそれによるブレアルアミンの生産についてさらに詳細に登明する。

(1) プレアルアミン遺伝子

本発明で用いられるプレアルプミンをコードする c D N A は、 ヒトの肝臓より摂製した mRNAを出発材料として、 常法に従い逆転写酵素により二本銀 c D N A を合成し、これを大腸菌によりクローニングしたものである。 クローニングされたプレアルプミン遺伝子はプレアルプミン遺伝子はプレアルプミン遺伝子はプレアルプミン遺伝子はプレアルプミン遺伝子はプレアルプミン遺伝子はプレアルプミン遺伝子はプレアルプミン遺伝子はプレアルプミン遺伝子はプレアルプミン遺伝子はプレアルプミン

本発明において調製されたプレアルプミン cDNA は、 669 塩基対からなり、 アミノ酸をコードする領域の完全な配列を含む。 さらに、 プレアルプミン cDNAは5'-非難収領域に26、3'-非難収領域に161の塩基対を含む。

第1回の制限酵素図および第2回に示す塩基配列を有するDNA断片が大腸菌プラスミド Okayama-BeryベクターにオリゴdG、dC法により挿入されたものを、通常はPst I・Pyu II で処理してプレアルプミン遺伝子断片を得、後述のプラスミド構築に供する。必要に応じ、成熟プレアルプミンを直接組

レアルプミンの遺伝子は、 正常プレアルプミン遺伝子を用い、 この遺伝子にポイントミューテーションを起こさせ必要な箇所のみ塩基を変換することによっても調験することができる。

(2) シャトルペクター

本発明で用いられるシャトルベクターは、 静母 の遺伝子と大腸菌の遺伝子とを含みかつ静母の形 賃免現賃節領域を担ったブラスミドベクターである。

この酵母の遺伝子としては、一般に、ブラスミドが酵母中で染色体と独立して増殖するのに必要なDNA配列、例えば酵母染色体の複製に必要なDNA配列(2μori)があり、所望により、さらに形質転換酵母の遺択マーカーとなる遺伝子が含まれる。この遺択マーカーとしては、ロイシン産生遺伝子、ビスチジン産生遺伝子、トリプトファン産生遺伝子、ウラシル産生遺伝子、アデニン産生遺伝子などが含まれ、これらの1種または2種以上が用いられる。

大腸苗側の遺伝子としては大腸菌体内において

換え時母に免現させるために、 西訳される第1番目から20番目までのアミノ酸、 すなわちシグナルペプチドの部分をコードする遺伝子を予め除去しておくこともできる。 この場合には、 同始コドンのATGも同時に除去されるため、 後に述べるシャトルベクターにブレアルブミン遺伝子を組み込む際に同始コドンとなるATGを付け加える工夫が必要となる。

なお、本発明で述べるプレアルプミン遺伝子は、 第2回に示す塩基配列を有するものに限定される ものではない。

また、異型プレアルブミンをコードする遺伝子も、 PAP 患者の肝臓より関数した mRNAより同様にして異型プレアルブミンをコードする cDNA を類似することができる。 このようにして得られた異型プレアルブミン遺伝子は、 正常のブレアルブミン遺伝子関列と比較して、 1 塩基の違いしかなく、 プレアルブミン遺伝子の関数開始コドンを+1とした場合に第149番目(+148)のシトシンがアデニンに変異しているだけである。また、異型プ

プラスミドが増殖するために必要なDNA配列、例えばColE!系のプラスミドの複製起点のDNA配列(ori)を有し、好ましくはさらに形質転換大腸菌の選択マーカーとなる遺伝子を含む。この選択マーカーの遺伝子としてはアンピシリン副性遺伝子、カナマイシン耐性遺伝子、テトラサイクリン耐性遺伝子などが挙げられ、これらの遺伝子の1種または2種以上が用いられる。このような大腸菌DNAとしてアンピシリン耐性遺伝子とテトラサイクリン耐性遺伝子を有するのBR322が一般に扱用されている。

組換え酵母によりプレアルブミンを産生させるために必要な形質免現関節領域(プロモーター)には酵母由来のものが用いられる。 好ましいプロモーターの例としては、 散性フォスファターゼプロモーターやグルタルアルデハイドデヒドロゲナーゼプロモーターのように本来酵母に必要な酵素等の形質免現を行うプロモーター等が挙げられる。 具体的な一例として酵母の抑制性酸性ホスファ

ターゼプロモーターは通常ホスファターゼを構成する60,000ダルトンのポリペプチド (p60) のプロモーターであり、そのプロモーター活性もかなり強力で、且つ培地中のリン酸濃度をコントロールすることによってプロモーター活性を制御できることに大きなメリットがある。

このようなシャトルベクターの代表的な例は、本発明者らにより調製された。 酵母館の遺伝子として arsi、2μoriおよびロイシン耐性遺伝子 (Leu2) を有する酵母 DNAと大腿菌プラスミド pBR322とを組み合わせたシャトルベクター PAM82 (特別昭59-36699) であり、これはつぎのようにして検灸される。

昨日5288G DNAバンクより得られた抑制性酸性ホスファターゼを構成する60,000ダルトンのポリペプチド (p80) の遺伝子を含む約8000塩基対 (8Kb) の制限酵素 EcoR I 断片 [PNAS, 77巻、6541~6545頁、(1980)および PNAS, 79巻、2157~2161頁、(1982)を参照] を公知の大願菌プラスミド pBR322 [Sutcliffe, J. G., Cold Spring Harbor Symposiu

m.43 巻、77~90頁、(1979)を参照]のEcoRI部位に挿入して得られるプラスミドを出発材料とする。なおこの B K b D N A 断片は制限酵業 Saliの認識部位を約2.8 K b 色 が p B R 3 2 2 の アンピシリン耐性遺伝子側になるように挿入されている。

このプラスミドを制限政策Sallで切断し、さらにT4DNAリガーゼにより再アニールさせてpBR322のSall部位から酸性ホスファターゼ遠伝子断片の5.2Kb倒を失ったプラスミドを得、これをpAT25と称する。このpAT25はpBR322のアンビシリン耐性遺伝子を含むEcoRl部位からSall部位までの約3.7 Kbの断片と酵母の酸性ホスファターゼ遺伝子のEcoRl部位からSall部位までの約2.8Kbの断片がそれぞれ対応する末端同志で結合したプラスミドである。つぎに、上記pAT25のEcoRl部位に、酵母の自律増殖に必要なDNA配列(arsi)および酵母のTrpi遺伝子を含む1.4KbのEcoRl断片[Pro.NAS,76巻、1035~1039頁、(1979)を参照]を挿入する。

arsi-Trplを含む断片は、そのTrpl遺伝子内に制限 酵素Hind皿の認識部位を1個所有する。

上記pAT26のHind四部位に酵母のロイシン産生遺伝子(Leu2)と2μ mDNAの複製に必要なDNA配列(2μori)を含むHind四断片(Tohe, A., Guerry, P., Vichener, R.B.; J. Bachterioi, 141, 413~416, 1980を参照)を挿入する。このようにして得られるプラスミドがシャトルベクターpAT77(特別 昭59-36689を参照)である。

このpAT77は、大腸菌の遺伝子としてpBR322のアンピシリン耐性遺伝子(Ap')を含むEcoR I 部位からSal I 部位までを有し、一方酵母の遺伝子として、pBR322と結合したEcoR I 部位よりars1、2μori、Leu2遺伝子の順に位置し、さらにそのつぎに酸性ホスファターゼ遺伝子の上流からSal I 部位までを有する。そしてそのEcoR I およびSal I 部位でこれら大腸菌遺伝子と酵母遺伝子が結合した構造となっている。このpAT77は大腸菌内においてはpBR32の複製起点DNA配列(ori)により増殖し、また酵母内においてはars1および2μoriにより増殖可能と

なる。 さらにこのプラスミドは、 選択マーカーとしてアンピシリン耐性遺伝子(Apr) およびロイシン産生遺伝子(Leu2)を有しており、 大麻蘭、 酵母菌のいずれの細胞内でも増殖でき、 シャトルベクターとしての条件を充分に摘たしている。

なお、このシャトルベクターを用いるのは、後記組換えブラスミドを大腸菌を用いて調製するためであり、該組換えブラスミドで酵母を形質転換する段階に至っては、 大腸菌の遺伝子は除去されても問題はない。

このようなシャトルベクターpAT77 を制限的数 Sallで処理して同裂させ、ついでこれをエキソヌクレアーゼ BAL31で処理することにより散性ホスファターゼ構造遺伝子の一部または全部と、所望によりさらにその上流の種々の部分まで除去する。 この除去は酸性ホスファターゼ構造遺伝子の上流-50bpの前までの適当な部位まで行われ、エキソヌクレアーゼ処理条件により適宜関節される。

上記のようにして酸性ホスファターゼ構造遺伝 子全部もしくはさらにその上環部分を除去したの ち、この部位に合成または天然のリンカー、例えばSallリンカーまたはXholリンカーを組込み再び環状プラスミドに戻すことにより、酸性ホスファターゼプロモーターの制御下に外来性遺伝子を純粋な形で発現させ得るシャトルベクターが得られる。このようにして酸性フォスファターゼ構造遺伝子の上流・33bpまで除去したシャトルベクターが、pAM82である。

このシャトルベクターは、通常の制限酵素SallまたはXholで処理することにより容易にその組込み部位を開製させることができるため、所望の遺伝子を組込むのに好適である。このようなシャトルベクターpAH82に関しては本発明者らにより特問 昭59-38699として特許出願されており、 なお、このpAH82をサッカロミセス・セレビシェAH22に組込んだもの(サッカロミセス・セレビシェAH22に組込んだもの(サッカロミセス・セレビシェAH22/pAM82)は微工研条寄第313号として寄託されている。
(3) ブレアルブミン遺伝子発現ブラスミドの構築 本発明の組換えブラスミド、 すなわちブレアルブミン遺伝子を組込んだブラスミドの 買製は、ま

こさせる。 このように処理された酵母をベクター上に担われている宿主酵母の変異を相補する遺伝子、 例えばロイシン産生遺伝子の発現を指標として形質転換酵母を選択し、 分離する。

(5) 形質転換酵母の培養およびプレアルブミンの 生産

上記の方法で得られた形質転換酶母を培養し目的のプレアルプミンを得る。 この場合、 用いたがりロモーターに応じて培養条件を工夫することを一ターは 放散性ホスファターゼ でした一切では、 得られた形質 転換 では でいる 間体をリン酸を含む 地にてる 菌体をリン酸を含まない ターゼ がかける はい 条件下に培養する。 培養後、 ッグナルペプチャ 領域を除去したプレアルプミン 遺伝

ず前記シャトルベクターを使用したリンカーに対応する制限酵素、例えばSallまたはXholにて処理して問題させ、これに上記プレアルブミンDNAを作用させて連結させる。これを大幅簡にて増幅し、各種制限酵素分析によって正しい配位に組込まれたもののみを選択し、目的とする組換えブラスミドを得る。

(4)酵母の形質転換

形質転換されるべき即母としては、ブラスミドで担われた形質転換酵母の選択マーカー遺伝子によって相補される変異を持った変異株、例えばロイシン要求性変異株であるサッカロミセス・セレビシェ(Saccharomyces cerevisiae) AH22 (a leu2 his4 Can1 (Cir*))、サッカロミセス・セレビシェ(Saccharomyces cerevisiae) AH22 pho80 (a leu2 his4 Can1 (Cir*) pho80) などを用いる。 上記組換えブラスミドを大腸菌にて増殖させたのち、 抜酵母変異株に常法により作用させ、例えばスフェロブラスト化したのちカルシウム処理した菌体とブラスミド DNAを混合して形質転換を起

子を用いた場合には菌体内に、またシグナルペプチド領域を含む全プレアルブミン遺伝子を用いた場合には、その培養液中および菌体膜表面に分泌されたプレアルブミンが多量に無限される。 なお、用いる酵母の種類により、例えばPho80変異株を用いた場合には、酸性ホスファターゼプロモーターを抑制しない条件をとくに採用する必要はなく、設形質転換酵母を直接培養して所望のプレアルブミンを大量に産生させることができる。

上記方法であられるプレアルプミンは免疫学的にヒトの血中に存在するものと区別し難く、また、プレアルプミンが培地中に分泌、放出されることから、 酵母における蛋白質分泌研究のモデルとしても有用である。

つぎに実施例を挙げて本発明をさらに具体的に 説明する。

実施例1: プレアルアミンの発現

- (1)プレアルアミン遺伝子の興製
- (I)mRHAの特製
- ヒト肝臓は手術時に排出し、液体窒素中にて直

ちに確結し、これを用いて、チャーウィンら (Chiravin et al, Biochemistry, 24 5294-5299, 1979) の方法に従って、 mRNAを再製した。

(II)cDNAの合成および大陽菌 HB101の形質転換と ト肝臓より得た mRNAをもとに Okayama-Berg法(Okayama, H. and Berg, P., Hol. Cell Biol. 2, 161-170, 1982) により、cDNAを含むプラスミド を作製し、これを大腸菌 HB101に形質転換し、cDNA ライブラリーを開製した。

(加)プレアルプミンcDNAの同定

Kandaら (Kanda, Y. et al, J. Biol. Chem., 249, 6796-6805, 1974) によって明らかにされているプレアルプミンのアミノ酸配列をもとに Asp **-Gin**に相当する部分の合成DNA16種を合成し、これをVallaceら (Vallace, R.B. et al, Huclel c Acids Res., 6, 3543-3557, 1979) の方法により (r-3**P) ATPでラベルし、これをプロープとしてcDNAライブラリーのスクリーニングを行い、プレアルブミン遺伝子を含む大脇菌を選び出した。

姑合したブラスミドである)を得る。

(IV)プラスミド DNAの類型

つぎに、このPAT25のEcoRI部位に、プラスミドYRPTをEcoRI処理することによって得られるarsl およびTrpl速伝子を含む1.4KbのEcoRI断片を挿入してプラスミドPAT28を得る(このarsi-Trplを含む断片は、そのTrpl速伝子内に制限酶無Hind皿の・認識部位を1固有する)。

上記pAT26のHind回に、プラスミドpSLE1をHind回で免疫して得られる酵母のLeu2および2μoriを含むHind回断片を挿入してシャトルベクターpAT77を得る。このpAT77をサッカロミセス・セレビシェAH22に組込んだもの(サッカロミセス・セレビシェAH22/pAT77)は微工研灸容集324号として容託されている。

上記の方法で得られた pAT77 (1μ8) を Sailで 開製したのち、20mHトリスーHCI(pH8.2)、 12mH CaCl2、12mH MgCl2、0.2M NaCl、1mH EDTA溶液50 μ l中で0.1Uのエキソヌクレアーゼ BAL31を30秒~ 1分間作用させる。 ついでフェノール抽出、エタノ ール沈忍を行ったのち、Xhol リンカー1pmolとT4 プレアルブミン遺伝子を含む大陽菌より松原ら (Matsubara et al, J. Virol., 16, 479-485, 1975) の方法によりプラスミドを調製した。 このプラスミドはOkayama-Bergベクターにプレア ルプミンをコードする全領域のcDNAがクローニン グされたものであり、これをpPA1とした。

(2) シャトルベクターpAH82の興製

酵母 S288GDNAバンクより得られた抑制性酸性ホスファターゼを構成する80000ダルトンのボリペブチド (p80) の遺伝子を含む約8000塩基対 (8kb) の制限酵素 EcoR I 断片を大腿菌ブラスミド pBR322 の EcoR I 部位に挿入して得られるブラスミドを出発材料とし、これを制限酵素 Sal I で切断し、さらに T4DNAリガーゼにより 再アニールさせて pBR322の Sal I 部位から酸性ホスファターゼ遺伝子断片の 5・2Kb側を失ったブラスミド pAT25 (これは pBR322 の アンピンリン耐性遺伝子を含む EcoR I 邸位から Sal I 部位までの約3・7Kbの断片と酵母菌の酸性ホスファターゼ遺伝子のEcoR I 邸位から Sal I 部位までの約2・8Kbの断片がそれぞれ対応する末端 同士での約2・8Kbの断片がそれぞれ対応する末端 同士での約2・8Kbの断片がそれぞれ対応する末端 同士で

DNAリガーゼの反応条件下で12時間結合を行う。この反応箱被で大幅間×1778を形質転換し、得られたアンビシリン耐性の形質転換体よりプラスミドDNAを関製し、各DNAについてマキサムーギルパートの方法(Maxam, A, & Glibert, V.; Pro. N.A.S.,74,560~564を参照)に従い、塩基配列を調べ、BAL31処理により除去された酸性ホスファターゼ遺伝子領域を決定する。これら中からホスファターゼ構造遺伝子領域が完全に除去されたプラスミドのAM82(第3間)を得る。

ホスファターゼ禄遠遠伝子の度物p80の最初のアミノ酸であるメチオニンをコードするコドンATGのAを+1として、pAM82は-33まで除去されたものである。 なお、このpAM82をサッカロミセス・セレビシェAH22に組込んだもの(サッカロミセス・セレビシェAH22/pAM82)は微工研条容第313号として容託されている。

(3)プレアルプミン遺伝子発現プラスミド (pNPAI)の型数

プレアルアミンをコードする全領域(第1図参

図)を含む DNA断片が挿入されているプラスミド pPAI(3μg)を制限酵素 Hae III、 Xba I で切断処理し、63・108番目の46bpよりなる DNA断片を精製し、これに、EcoR I の切断端を持つ合成 DNAを結合し、これをさらに、EcoR I、 Xba I で切断処理したプラスミド pUC19の EcoR I・Xba I サイドに挿入した。ついで、このプラスミドを Xba I、 Hinc II 切断処理し、これに、 pPAIを Xba I、 Pvn II 切断処理して得た5706bpの DNA断片を挿入した。このようにして得たプラスミドは、プレアルプミンのシグナル領域が除去され、さらに aux 同始コドンとして ATGが、 即ち N末端メチオニンが付加されたプレアルプミンcDNAを持ったことになる。 つぎに、このプラスミドを EcoR I・Hind III で切断処理してプレアルプミンの cDN A部分を切り出し、これに Xho I リンカーを結合した。

このようにして末端がXho! 切断末端となったプレアルプミン遺伝子断片を得た。このDNA断片とXho! で開製されたシャトルベクターpAM82を、分子比5:1で混ぜT4DNAにより結合させた後、この反

スフェロブラスト化する。 ついで、スフェロブラ ストを1.2Mソルビドール宿欲で3回洗浄したのち、 2Hソルビトール、IOmHCaCleおよび 10mHトリスー HCI (pH7.5) の溶液O.6mIに懸濁させ、 その60μl ずつを小試験質に分注する。 これに前記(3)で開製 した組換えプラスミドpNPA1宿被30μlを加え、充 分混合し、 さらに 0.1 M Ca Cia (3 μ I) 加えて 最終 濃度 10mHCaClaとし、 玄温に5~10分間放置する。 つい でこれに、20%ポリエチレングリコール4000、10m HCaCleおよび10mHトリスーHCl(pH7.5)溶液1mlずつ を加えて混合し、 宣福に約20分間放置する。 この 混合液0.2■1ずつを45℃に保温された再生培地(22%ソルビトール、 2%グルコース、 0.7%イーストニ トロゲンベースアミノ酸、 2%YPD、20μg/mlヒスチ ジン、 3% 実 矢) 10 m l に 加 え、 軽 く 混合 さ せ、 予 め 準備された1.211ソルビトール合有最小培地(0.7% イーストニトロゲンベースアミノ酸、 2%グルコー ス、 20μ g/mlヒステジン、 25京天) プレートに重 厚し、固化させたのち、30℃で培養してロイシン 非要求性酵母のコロニーを得る。 このコロニーを

応液で大陽蘭HB101を形質転換した。得られたアンピシリン耐性の形質転換体よりプラスミドDNAを開製し、それらについて、 EcoR I 、 Xba I 、 Xho I で分析することにより、ベクターへのではなした。 選伝子の組込みおよびその方向を確認した。 選び出されたプラスミドはベクターのホスファターゼブロモーターの下流にプレアルプミン遺伝子発現プラスミドの構築の流れを示したものを第4回に示した。

(4)形質転換酵母の調製

野母としてサッカロミセス・セレビシエAH22[a leu2 his4 Canl (Cir*)] (数工研条容第312号) を用い、これをYPD培地 (2%ボリペプトン、15イーストエキス、2%グルコース) 100m1に接種し、30℃で一晩培養したのち、遠心して集留する。越苗水20m1にて苗体を洗浄し、ついで1.2Hソルビトールおよび100μ8/m1チモリアーゼ60,000 (生化学工業製) の溶液5m1に整濁させ、30℃で約30分間保ち、

20μ 8/mlヒスチジンを含むパルクホルダーミニマルメディウム (Tohe, A. et al; J. Bachterol., 113, 727~738(1973)を参照) にて培養して形質転換酵母サッカロミセス・セレビシェ pNPAlを得る。(5)形質転換酵母によるプレアルプミンの製法

前記(4)で得られた形質転換酵母の各コロニーをさらに20μ 8/mlとスチジンを含むパルクホルダーミニマルメディウムの寒天ブレート上に塗の口にで培養してコロニーを形成させる(ロイシン非要求性となったが質な体を分離し、20μ 8/mlとスチジンを含むパルクホルダーミニマルのコロニーから菌体を分離し、20μ 8/mlとスチジンを含むパルクホルダーミニマ 約24時間後、対数増殖期にあるる場でもして第を行う。約24時間では、対数増殖期にあるのは、メーミニマルメディウムに含まない最小増近(パルクホルダーミニマルメディウムに含まれるKHzPOをKC1で度)し、さらに20μ 8/mlとスチジンを加えたに懸っては表を続けた。このようにして酵母ので産生されたプレアルフェンを含むになった。

リン酸濃度を低下させ、 プロモーター活性を誘う 導する前後でのプレアルブミンの酵素免疫測定に よる測定値を後記実施例2の第1表中に示した。

実施例2: 異型プレアルアミンの発頭

(1)異型プレアルプミン遺伝子の開製

FAP患者の肝臓を手術時に拍出し、実施例 1の場合と同様にして異型プレアルブミンをコードするcDNAを開製し、これをOkayama-Bergベクターにクローニングし、これをプラスミド pPA3とした。(2)異型プレアルブミン遺伝子免現プラスミド (pMPA1) の調製

この異型プレアルブミンをコードする全領域を含む ONA断片が挿入されているプラスミド pPA3 (3μ8) を用い、実施例 1 と同様にしてシャトルベクター pAM82の酸性ホスファターゼプロモーター下流に異型プレアルブミン遺伝子が組み込まれている発現プラスミド pMPA1を得た。

(3)形質転換酵母による異型プレアルプミンの製法 前記のプラスミド pMPA1を実施例 1 と同様に静母 サッカロミセス・セレビジェAH22に導入し、 形質

また、実施例2における異型プレアルプミンも 同様にFAP患者血液由来の異型プレアルプミン と免疫学的に同一であることが判明した。 (第5 図、第6図参照)

4.図の簡単な説明

第1回は、プレアルプミン選伝子の制限酵素切断地図、第2回はプレアルプミン選伝子の塩基配列とこれから予想されるアミノ酸配列を示す。

第3図は、シャトルベクターpAM82のブラスミド のを示す。

第4回はプレアルプミン遺伝子発現プラスミド の複類図を示す。 転換酵母を得、これを同様に培養した。第1表に リン酸濃度を低下させ、プロモーター活性を導入 する前後での異型プレアルプミンの酵素免疫剤定 の数学を示した。

第 1 表

プラスミド	プレアルブミン産生量 (με/ε1)	
	誘導的	誘導後
pNPA1	0	5.3
pMPA1	0	2.1

実施例3: 産生されたプレアルプミンの解析

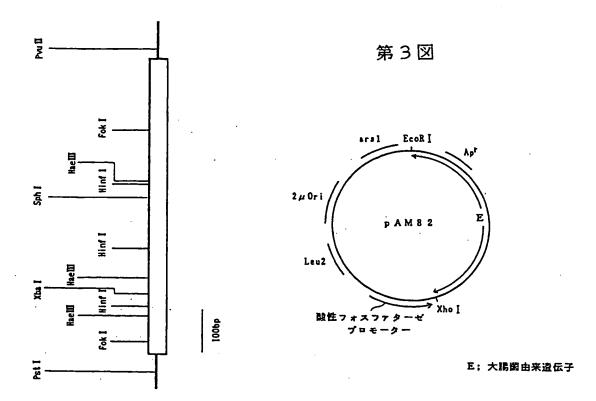
前記実施例 1 および実施例 2 により 得られたプレアルプミン (正常) および異型プレアルプミンの免疫学的性状をヒト血液由来のプレアルプミンのそれと比較することにより 関べた。

その結果、正常プレアルプミンを産生している 酵母菌を破砕して得られる粗抽出液の酵素免疫測 定における反応性は、ヒト血液由来のプレアルプ ミンのそれと同一であることが確認された(第5

第 5 図は酵母産生正常プレアルブミン、 異型プレアルブミンおよびヒト血液由来プレアルブミンの酵素免疫樹定における反応性を示す。

第8 図はヒト血液由来プレアルプミン(レーン 1)、 脚母産生正常プレアルプミン(レーン 2)、 助母産生異型プレアルプミン(レーン 3) および 宿主酵母菌粗抽出液(レーン 4) のウェスタンプ ロット像を示す。

AAAAAAAAA



图

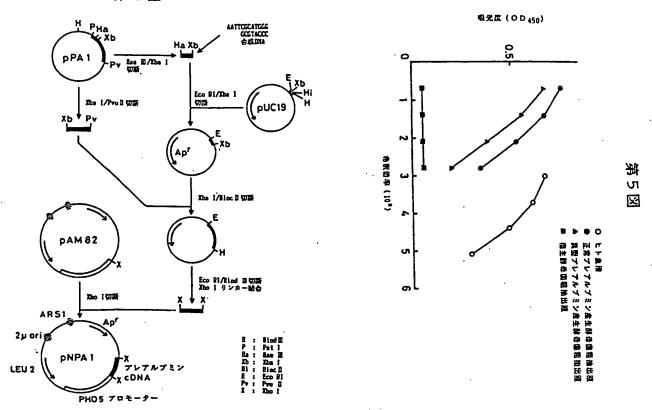
紙

ACAGAAGTCCACTCATTCTTGGCAGG

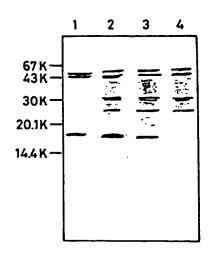
第2図

Arg Lys Ala Lys Ser Tyr AAA TCT TAC Arg Tyr Thr Les CTG Ser TCC GC 5 Ser AGT Glu Glu Glu Phe GAG GAG GAA TIT Glu His Ala Glu GAG CAT GCA GAG Ala GCT Val Val Thr Asn Pro Lys Glu *** GTC GTC ACC AAT CCC AAG GAA TGAGGGACTTCTCCTCCAGTGGACCTG CTGTTTTCACCTCATATGCTATGTTAGAAGTCCAGGCAGAGACATAAAACATTC a A G G A C G A G G G A T T T C A T G T A A C C A A G G A T T C C A T T T T A C T A A G C A Lys Thr £ 5 gyy Gyy Val Arg GTC CGA The ACG Thr Ala 9. 64. Gly Pro Arg / Leu AC ACC Ala Val Phe GTG TTC G13 GGG Thr Ser TCC Pro Phe His (CCA TTC CAT (66. 66. Leu Leu Leu Cys CTG CTC CTC TGC Asp GAT Asp Ty. Ser TCT F TO His CAT Thr 11e Leu GAT GAC ACC TGG GAG CCA TTT GCC Ser Thr His Gly Leu 7 CAT GGG CTC / Asn Asp Ser (Ser Pro Tyr 9 Va l GTG Q1° ᇗ P CCT Val Lys ' Val Ala V GTG GCC (Ile Ser B ATC TCC Lys Val 9 9 9 9 Ala Glu Leu B Met Ala Ser His Arg ATG GCT TCT CAT CGT Asn G J u Me t ATG 11e Tyr ATA TAC 61y 660 Val Val Phe Thr Ala GTG GTA TTC ACA GCC lle Ala Ala Leu Leu ATT GCC GCC CTG CTG Ala Ile / GCA CTT (Lea CTG Ser Ser Gly TCT GGA G10 G1y GAA GGG Val GTG Pro CCT Trp Lys Pro CCT Phe TT Cys TGT A1a GCT 9Y9 Va I GTA Va l GTA Lys AAG Ser

第4図



第6図



第1頁の続き

⑤Int Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

//(C 12 N 15/00 C 12 R 1:865) (C 12 P 21/02 C 12 R 1:865)

⑫発 明 者 濱 田 福 三 郎 熊本県菊池郡西合志町須屋2679-2